

令和3年11月4日

柏市自立支援協議会
会長 松井 宏明 様

団体名: 柏市心身障害者福祉連絡協議会

代表者: 細田 智子

連絡先住所: 柏市若柴 277-7

中央 163 街区サウスフロント 607

電話番号: 080-5533-8099

障害者のコロナワクチン接種対策に関する要望書

松井様におかれましては、柏市の障害福祉において多大なお働きと、障害当事者の活動におきましてもご理解いただき感謝申し上げます。

さて、標記につきまして、障害者と柏市内福祉事業所を感染から守るための協力体制の検討をしていただきたく、下記のとおり、お願い申し上げます。

1. 要望の趣旨

今夏のコロナワクチン接種、及び感染防止において障害のある人と家族から、接種の予約と、接種の実施について困難を訴える声が多く団体に届いております。今後に向けて障害者と家族、及び市内事業所が安全に運営を継続していけるよう関係者間の協力ネットワーク作りをお願い申し上げます。

2. 要望の理由

コロナワクチン接種に関して当事者団体より、「今夏感染急拡大する緊張の中、予約・接種に大変な苦勞をした。今後このような混乱が起きないような対策を希望する」、との声が多く寄せられています。9月になっても接種ができない人がいたため、柏市手をつなぐ育成会でアンケートをとったところ、約7割、150名を超す会員からの回答と改善を願う声が集まり、柏市心身障害者福祉連絡協議会に所属する障害者団体においても同様の声が集まりました。

障害のある人が通所先や職場でスムーズに接種できた人はごく一部で、ほとんどの場合、一般の人と同じ条件になりました。障害手帳所持者は基礎疾患の中に含まれ、希望者全員が早期接種ができると期待されましたが、65才以上、以下で分けられ、また基礎疾患が心臓・呼吸器・腎臓・肝機能障害の身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者と限定されたために、それらに当てはまらない障害者手帳所持者は早期接種ができず、結果的に高齢の家庭や視覚障害の方を中心に予約競争に巻き込まれ、多くの人が大変な思いをしました。

福祉事業所の職員は年齢で区切られ、20代の若い職員は9～10月になってようやく予約・接種ができる状況でした。集団接種会場では、大きな声を上げる本人に注目が集まったり、混乱する本人を抑えつけて接種する例もあり、本人や家族にとって深い傷を負う事も起きました。また、車椅子使用者が集団接種会場でのバリアフリー情報がわからず、あきらめる人もいました。

クラスターの発生が続きまとう福祉事業所の利用者、職員が一般の人と同じ立場で接種するのは、多くの困難が生じます。今夏、行政の仕組みの中では手の届かない家庭が多くありました。今夏の混乱の状況を振り返って、市内の大切な福祉サービスの事業所運営が守られるよう、又、困っている障

害当事者の支援について検討し、次の感染に備えられるようお願い申し上げます。

3. 要望の詳細

- ①職域接種でスムーズに接種できたのは、一部に限られていました。多くの家庭で大変な労力を経て予約を取り、本人の接種に同行しています。自立支援協議会で何ができたか、次の感染に備えて、何が必要か検討をお願いします。
- ②事業所での困ったことなどの声を集めて共有し、改善対策の検討をお願いします。
- ③障害福祉課の担当者(担当者を置くことを要望しています)と連携を取り、事業所単位の接種状況の把握や、困難や危機的状況がないか等、全体の事を把握するネットワークを考えて下さいますようお願いいたします。
- ④接種に関して本人支援に必要と思われる相談支援や、接種に同行サポートできる移動支援や同行援護・支援など、支援体制について検討をお願いいたします。

『添付資料』

柏市手をつなぐ育成会-コロナワクチン接種に関するアンケートの声

- ワクチン接種券の発送・接種の開始が他市に比べ遅れ、コロナ対策の準備の遅れが感じられた。
- コロナに関する担当が保健所関係の担当者のみ。相談窓口もコールセンターのみ。検査希望や、感染の可能性があっても電話しても通じなかった。必要な情報がない、相談方法もない中、自分で探して動くしかなかった。
- どの病院でPCR検査してくれるか情報が公開されず、かかりつけ医もそれを知らなかった。
- 職域接種は、事業所が医師を確保しなければならず、施設で接種ができたのはわずかで、一人親、高齢保護者、交通弱者などの家庭は、取り残されてしまった。
- 慣れない集団接種会場を避け、病院での接種を探して苦労した人が多かった。
- ワクチンの供給が滞り、予約取りは大混乱した。80の接種可能な医療機関では接種枠が少なすぎた。またかかりつけ医でないと受け付けられない病院が多く、どこで受け付けてくれるかわからず、接種希望者への対応が追い付かなかった。
- 高齢の保護者が利用できるのは、ほとんどの人が電話予約のみ。ネット予約や予約競争に取り残された。
- 接種会場において、障害者の行動困難や、不安感の強いこと、高齢化家庭の動きの困難などを知らない担当部署だけでは対処・配慮が届かない。また慣れない場所、集団の中で押さえつけられて接種される本人にとっては、虐待に近い接種体験だった。
- 近くの病院で接種ができず、高齢の親が、遠い病院に交通機関を乗り継いで障害のある子を連れて行かなくてはならなかった。
- 仕事を持つ家庭も、予約取り(予約を取る時間が限られていた)から始まり、自分の接種、子どもの接種、その後の自宅療養と何度も休みを取るしかなかった。
- 福祉サービスの支援者は福祉従事者として認められず、20代の若い職員(放デイや移動支援の職員が多い)は9月～10月になってようやく接種ができる状況だった。全体の接種が一通り終わるのに4～5カ月の長い期間がかかった。

肢体不自由児(者)を育てる会-コロナウィルスワクチンに関する会員の声

- ワクチン接種券について、身体障害者手帳のみ所持・基礎疾患なしの障害者も重度障害者と一緒に接種券が配布されたら良かった。
- ワクチン接種の予約が全く取れなかった。どこで予約が取れるか、相談支援員さんに聞いても市のコールセンターの電話番号を教えるだけだった。予約が取れた会員さんからの情報で予約したりした。
- 集団接種会場のバリアフリー情報や車椅子の為、車で連れて行くのに駐車場の情報もなく、集団接種会場はあきらめた。